

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (51) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(51)—

1. 始めに

前報(50)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

ドイツグラモフォン 30MG 0165/6

モーツアルト ピアノ協奏曲 20 番ニ短調

ピアノ協奏曲 21 番ハ長調

ピアノ協奏曲 26 番ハ長調

ピアノ協奏曲 27 番変ロ長調

フリードリッヒ・グルダ (ピアノ)

クラウディオ・アバド指揮ウイーンフィル

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ピアノ協奏曲 26 番以外は、前報(49)および前報(50)収録とおなじ曲ですが、2枚組にプレスしなおしたもののようで、演奏そのものは前報(49)および前報(50)と同様ですが、音の鮮度が若干落ちています。

ピアノ協奏曲 26 では、グルダの演奏は、これもよく歌うような演奏で、音に芯があっけがちりした演奏の印象を受けます。アバド指揮ウイーンフィルは、厚みが

あり音がぎっしりと詰まった感じで、構成がしっかりした印象を受けます。
しかしながら、前報(49)および前報(50)に比べれば、少し音の肌理が粗い印象です。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、グルダのピアノとアバド指揮ウイーンフィル演奏は、前報(49)および前報(50)収録とおなじ曲なので同様の印象ですが、2枚組にプレスしなおしたもののようで、鮮度が若干落ちていることが分ります。

以上